

受 検 番 号	氏 名
.....	

令和 5 年度 (前期)

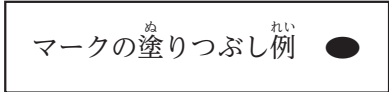
2 級建築施工管理技術検定

第一次検定問題

令和 5 年 6 月 11 日 (日)

[注 意 事 項]

1. ページ数は、表紙を入れて 19 ページです。
2. 試験時間は、10 時 15 分から 12 時 45 分です。
3. 問題の解答の仕方は、次によってください。
 - イ. [No. 1]～[No. 14]までの 14 問題のうちから、9 問題を選択し、解答してください。
 - ロ. [No. 15]～[No. 17]までの 3 問題は、全問題を解答してください。
 - ハ. [No. 18]～[No. 28]までの 11 問題のうちから、8 問題を選択し、解答してください。
 - ニ. [No. 29]～[No. 38]までの 10 問題は、全問題を解答してください。
 - ホ. [No. 39]～[No. 42]までの 4 問題は、全問題を解答してください。
 - ヘ. [No. 43]～[No. 50]までの 8 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。
4. 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となりますから注意してください。
5. 問題番号 [No. 1]～[No. 38]、[No. 43]～[No. 50]は、四肢択一式です。
正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。
6. 問題番号 [No. 39]～[No. 42]は、施工管理法の能力問題で四肢択二式です。
正解と思う肢の番号を 2 つ選んでください。
なお、選んだ肢の番号が 2 つとも正しい場合のみ正答となります。
7. 解答の記入に当たっては、次によってください。
 - イ. 解答は、選んだ番号を右のマークの塗りつぶし例に従って、[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで塗りつぶしてください。
 - ロ. マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
8. 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
9. この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
10. 漢字に付したふりがなは補足であり、異なる読み方の場合があります。
11. この問題用紙は、第一次検定の試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。
途中退席する場合は、持ち帰りできません。



- ※ 問題番号 [No. 1] ~ [No. 14] までの14問題のうちから、9問題を選択し、解答してください。
 ただし、9問題を超過して解答した場合、減点となりますから注意してください。
 問題は、四肢択一式です。正解と思う肢の番号を1つ選んでください。

[No. 1] 湿度及び結露に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 単位乾燥空気中の水蒸気の質量を相対湿度という。
2. 飽和水蒸気量は乾球温度によって異なる。
3. 冬季暖房時において、外壁の断熱性が低い場合、室内に表面結露が生じやすい。
4. 冬季暖房時において、熱橋部は温度が低下しやすいため、室内に表面結露が生じやすい。

[No. 2] 照明に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 光束法による室内の平均照度の算出式において、設計対象面上の平均照度は設計対象面の面積に反比例する。
2. ものの見やすさには、視対象の明るさ、視対象と背景の対比、視対象の大きさ及び見る時間が関係する。
3. 点光源による照度は、光源からの距離の2乗に反比例する。
4. 光源の色を表す色温度は、光源と同じ色の光を放つ黒体の絶対温度で表し、単位はルーメン (lm) である。

[No. 3] 色に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 無彩色とは、色みを表す色相や明るさを表す明度をもたない色をいう。
2. 補色どうしを対比すると、互いに強調しあい、鮮やかさが増して見える。
3. 色の温度感覚には、暖色や寒色、それらに属さない中性色がある。
4. 2つの有彩色を混ぜて灰色になるとき、その2色は互いに補色の関係にある。

[No. 4] 木造在来軸組構法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 階数が2以上の建築物における隅柱又はこれに準ずる柱は、原則として、通し柱とする。
2. 圧縮力を負担する木材の筋かいは、厚さ1.5 cm以上で幅9 cm以上とする。
3. 3階建ての建築物における1階の構造耐力上主要な部分である柱の断面は、原則として、小径13.5 cm以上とする。
4. 壁を設け又は筋かいを入れた構造耐力上必要な軸組の長さは、各階の床面積が同じ場合、1階のほうが2階より大きな値となる。

[No. 5] 鉄筋コンクリート構造の建築物の構造設計に関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 構造耐力上主要な部分である柱の主筋の全断面積の割合は、コンクリートの全断面積の0.4%以上とする。
2. 構造耐力上主要な部分である柱の帯筋比は、0.2%以上とする。
3. 床スラブの配筋は、一般に主筋と直角に、スラブの長辺方向に配筋する。
4. 四辺固定の長方形床スラブの中央部の引張鉄筋は、スラブの下側に配筋する。

[No. 6] 鉄骨構造の接合に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 高力ボルト接合の摩擦面には、ショットブラスト処理等による一定の値以上のすべり係数を確保する必要がある。
2. 完全溶込み溶接継目の有効長さは、接合される材の全幅とする。
3. 溶接と高力ボルトを併用する継手で、溶接を先に行う場合は両方の許容耐力を加算してよい。
4. 隅肉溶接継目の許容応力度は、母材の許容せん断応力度と同じ値とする。

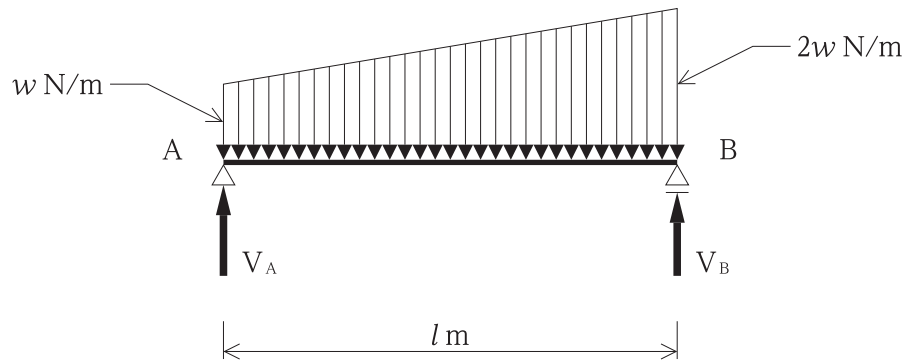
[No. 7] 基礎杭に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 拡径断面を有する遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (ST 杭) は、拡径部を杭の先端に使用する場合、大きな支持力を得ることができる。
2. 既製コンクリート杭の埋込み工法のひとつで、杭の中空部から掘削土を排出しながら杭を圧入する中掘り工法は、杭径の小さなものの施工に適している。
3. 外殻鋼管付きコンクリート杭 (SC 杭) は、一般に継ぎ杭の上杭として、遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC 杭) と組み合わせて用いられる。
4. 鋼杭は、地中での腐食への対処法として、肉厚を厚くする方法、塗装やライニングを行う方法等が用いられる。

[No. 8] 建築物の構造設計における地震層せん断力に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

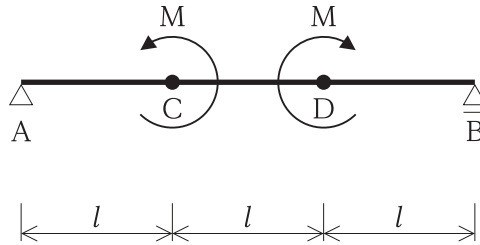
1. 地上部分のある層に作用する地震層せん断力は、算定しようとする層の固定荷重と積載荷重の和に、その層の地震層せん断力係数を乗じて計算する。
2. 地震層せん断力は、建築物の設計用一次固有周期及び地盤の種類に応じて算定する。
3. 地震層せん断力係数は、上層階になるほど大きくなる。
4. 地震地域係数は、その地方における過去の地震の記録に基づく震害の程度及び地震活動の状況、その他地震の性状に応じて国土交通大臣が定める数値である。

[No. 9] 図に示す単純梁 AB に等変分布荷重が作用したとき、支点 A の鉛直反力 V_A 及び
 支点 B の鉛直反力 V_B の値の大きさの比率として、正しいものはどれか。

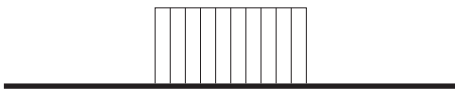


1. $V_A : V_B = 1 : 2$
2. $V_A : V_B = 2 : 3$
3. $V_A : V_B = 3 : 4$
4. $V_A : V_B = 4 : 5$

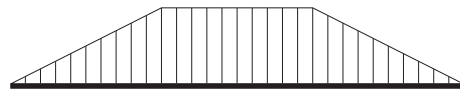
[No. 10] 図に示す単純梁 AB の点 C 及び点 D にそれぞれモーメント荷重 M が作用したときの曲げモーメント図として、正しいものはどれか。
ただし、曲げモーメントは材の引張側に描くものとする。



1.



2.



3.



4.



[No. 11] コンクリートに関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

1. スランプが大きいほど、フレッシュコンクリートの流動性は大きくなる。
2. 硬化後のコンクリートの圧縮強度が大きくなると、ヤング係数は大きくなる。
3. 暑中コンクリートは、日平均気温の平年値が 25°C を超える期間が適用期間となる。
4. 硬化後のコンクリートの引張強度は、圧縮強度の $\frac{1}{5}$ 程度である。

[No. 12] 日本産業規格 (JIS) に規定するセラミックタイルに関する記述として、**不適当なもの**はどれか。

1. セラミックタイルとは、粘土又はその他の無機質原料を成形し、高温で焼成した、所定の厚さを有した板状の不燃材料である。
2. 裏連結ユニットタイルとは、多数個並べたタイルの裏面や側面を、ネットや台紙等の裏連結材で連結したものをいう。
3. 屋外壁の有機系接着剤によるタイル後張り工法で施工するタイルには、裏あしがなくともよい。
4. 屋外壁のセメントモルタルによるタイル後張り工法で施工するタイルには、裏あしがなくともよい。

[No. 13] 防水材料に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. アスファルトプライマーは、下地と防水層の接着性を向上させるために用いる。
2. 絶縁用テープは、防水層の末端部に使用し、防水層のずれ落ち、口あき、剥離等の防止に用いる。
3. アスファルトフェルトは、有機天然繊維を主原料とした原紙にアスファルトを浸透させたものである。
4. 改質アスファルトは、合成ゴムや合成樹脂等を添加して、アスファルトの温度特性等を改りょうしたものである。

[No. 14] 内装材料に関する一般的な記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 木毛セメント板は、断熱性、吸音性に優れている。
2. けい酸カルシウム板は、軽量で耐火性に優れている。
3. 強化せっこうボードは、心材のせっこうに油脂をしみ込ませ、強度を向上させたものである。
4. シーリングせっこうボードは、普通せっこうボードに比べ、吸水時の強度低下が生じにくい。

※ 問題番号 [No. 15] ~ [No. 17] までの3問題は、全問題を解答してください。
問題は、四肢択一式です。正解と思う肢の番号を1つ選んでください。

[No. 15] 構内舗装工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 路盤材料に用いられるクラッシュランは、採取したままの砂利で、砂と土粒の混入したものをいう。
2. アスファルト舗装の路床は、地盤が軟弱な場合を除いて、現地盤の土をそのまま十分に締め固める。
3. コンクリート舗装に用いるコンクリートのスランプは、一般的な建築物に用いるものより小さい。
4. アスファルト舗装は、交通荷重及び温度変化に対してたわみ変形する。

[No. 16] 建築物の電気設備とそれに関する用語の組合せとして、最も関係の少ないものはどれか。

1. 避雷設備 ————— 棟上げ導体
2. 高圧受変電設備 ————— キュービクル
3. 情報通信設備 ————— 同軸ケーブル
4. 照明設備 ————— PBX

[No. 17] 給排水設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 地中埋設排水管において、柵を設ける場合、雨水柵には泥だめを、汚水柵にはインバートを設ける。
2. 飲料水用の給水タンクの天井、底又は周壁は、建築物の構造体と兼用してはならない。
3. ポンプ直送方式の給水設備は、水道本管から分岐した水道引き込み管に増圧給水装置を直結し、建物各所に給水する方式である。
4. 飲料水用の給水タンクの水抜き管は、一般排水系統へ直接連結してはならない。

※ 問題番号 [No. 18] ~ [No. 28] までの11問題のうちから、8問題を選択し、解答してください。
ただし、8問題を超過して解答した場合、減点となりますから注意してください。
問題は、四肢択一式です。正解と思う肢の番号を1つ選んでください。

[No. 18] 根切り及び山留め工法に関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 控え（タイロッド）アンカー工法は、山留め壁頭部の変形を抑制したい場合に有効である。
2. 場所打ち鉄筋コンクリート地中壁は、軟弱地盤や根切り底が深い掘削となる施工に適している。
3. 親杭横矢板壁は、遮水性がなく、地下水位の高い地盤では地下水処理を併用する必要がある。
4. トレンチカット工法は、根切り工事の範囲が狭い場合に適している。

[No. 19] 型枠の締付け金物等に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 独立柱の型枠の組立てには、セパレータやフォームタイが不要なコラムクランプを用いた。
2. 防水下地となる部分の型枠に、C型のセパレータを用いた。
3. 型枠脱型後にコンクリート表面に残るC型のセパレータのねじ部分は、ハンマーでたたいて折り取った。
4. セパレータは、せき板に対して垂直となるよう取り付けられた。

[No. 20] 日本産業規格 (JIS) のレディーミクストコンクリート用骨材として、規定されていないものはどれか。

1. 人工軽量骨材
2. 高炉スラグ骨材
3. 溶融スラグ骨材
4. 再生骨材 H

[No. 21] 在来軸組構法ざいらいじくぐみこうほうにおける木工事もくこうじに関する記述きじゆつとして、最も不適当なものはどれか。

1. 土台どだいの継手位置つぎていは、床下換気口ゆかしたかんきこうを避けた位置さとした。
2. 束立つかだて床組ゆかぐみの大引おおびきの継手位置つぎていは、床束心ゆかづかしんとした。
3. 根太掛ねだけの継手位置つぎていは、柱心はしらしんとした。
4. 根太ねだの継手位置つぎていは、大引等おおびきとうの受材心うけざいしんとした。

[No. 22] 木造住宅もくぞうじゆうたくの解体工事かいたいこうじに関する記述きじゆつとして、最も不適当なものはどれか。

1. 蛍光ランプけいこうらんぷは、窓ガラスまどと共に専用ともせんようのコンテナ容器内ようきないで破碎はさいして、ガラス類るいとして処分しょぶんした。
2. 建具たてぐと畳たたみは、建築設備けんちくせつびを取り外とした後のち、手作業てさぎょうで撤去てつきよした。
3. セッコウボードせっこうぼーどは再資源化さいしげんかするため、水みずに濡れぬないように取り扱とった。
4. 屋根草材やねぶきざいは、内装材ないそうざいを撤去てつきよした後のち、手作業てさぎょうで取り外とした。

[No. 23] ウレタンゴム系塗膜防水絶縁工法けいとまくぼうすいぜつえんこうほうに関する記述きじゆつとして、最も不適当なものはどれか。

1. 不織布ふしょくふタイプの通気緩衝つうきかんしょうシートは、接着剤せつちやくざいで張り付はけた。
2. 通気緩衝つうきかんしょうシートの継目つぎめは、隙間すきまや重なり部かさぶをつくらないようにシート相互そうごを突付つきつけとし、ジョイントテープを張り付はけた。
3. 穴あきあなの不織布ふしょくふタイプの通気緩衝つうきかんしょうシートは、下地したじに張り付はけた後のち、防水材ぼうすいざいでシートの穴あなを充填じゅうてんした。
4. 通気緩衝つうきかんしょうシートは、防水立上り面ぼうすいたちあがめんまで張り上はげた。

[No. 24] 外壁がいへきの張り石工事はいこうじにおいて、湿式工法しっしきこうほうと比較ひかくした場合の乾式工法ぼあい かんしきこうほうの特徴とくちょうとして、最も

不適当なものはどれか。

1. 地震時じしんじの躯体くたいの挙動きょどうに追従ついじゅうしにくい。
2. 石材せきざいの熱変形ねつへんけいによる影響えいきょうが少すくない。
3. 白華現象はっかげんしょうが起おこりにくい。
4. 工期短縮こうきたんしゆくを図りやすい。

[No. 25] 金属の表面仕上げに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ステンレス鋼のNo.2Bは、母材を冷間圧延して熱処理、酸洗いした後、適度な光沢を与えるために軽い冷間圧延をした仕上げである。
2. アルミニウムの自然発色皮膜は、母材を陽極酸化処理した後に着色や染色を行わず、素地のシルバー色のままとした無着色仕上げである。
3. 鋼材の電気めっきは、母材を電解液中で通電して、表面に皮膜金属を生成させた仕上げである。
4. 銅合金の硫化いぶしは、母材の表面に、硫黄を含む薬品を用いて褐色に着色した仕上げである。

[No. 26] 塗装工事における素地ごしらえに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. モルタル面の吸込み止めは、パテかきを行った後に、シーラーを全面に塗り付けた。
2. せっこうボード面のパテかきは、合成樹脂エマルジョンパテを使用した。
3. 木部面の不透明塗料塗りの節止めは、セラックニスを使用した。
4. ALCパネル面の吸込み止めは、下地調整を行う前に、シーラーを全面に塗り付けた。

[No. 27] 床のフローリングボード張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 壁、幅木、框及び敷居とフローリングボードの取合いには、板の伸縮に備えた隙間を設けた。
2. 張込み完了後の表面に生じた目違いは、養生期間を経過した後、サンディングした。
3. 接着剤張り工法のため、接着剤は専用のくしべらを使用し、均等に伸ばして塗り付けた。
4. 釘留め工法の根太張り工法のため、根太の上を下張りをを行い、フローリングボードを接着剤を併用して張り込んだ。

[No. 28] 外壁の押出成形セメント板(ECP)横張り工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 取付け金物(Zクリップ)は、パネル小口より80mm離れた位置に取り付けた。
2. 取付け金物(Zクリップ)は、パネル1枚につき左右両端部2か所ずつ4か所取り付けた。
3. 取付け金物(Zクリップ)は、下地鋼材にかかり代を20mm確保して取り付けた。
4. 取付け金物(Zクリップ)は、下地鋼材に溶接長さを15mm確保して取り付けた。

※ 問題番号 [No. 29] ~ [No. 38] までの10問題は、全問題を解答してください。
問題は、四肢択一式です。正解と思う肢の番号を1つ選んでください。

[No. 29] 事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 既存の地下埋設物を記載した図面があったが、位置や規模の確認のための試掘調査を行うこととした。
2. 既製杭の打込みが予定されているため、近接する工作物や舗装の現況の調査を行うこととした。
3. 根切り工事が予定されているため、前面道路や周辺地盤の高低の調査を行うこととした。
4. 防護柵を設置するため、敷地地盤の高低や地中埋設配管の調査を行うこととした。

[No. 30] 仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 規模が小さい作業所のため、守衛所を設けず、警備員だけを出入口に配置することとした。
2. 敷地内に仮設道路を設置するに当たり、地盤が軟弱であったため、浅層地盤改良を行うこととした。
3. 鋼板製仮囲いの下端には、雨水が流れ出すように隙間を設けることとした。
4. 仮囲いの出入口は、管理をしやすくするため、人や車両の入退場の位置を限定することとした。

[No. 31] 建築工事に係る申請や届出等に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 振動規制法による特定建設作業を指定地域内で行うため、特定建設作業実施届出書を市町村長に提出した。
2. 常時10人の労働者が従事する事業で附属寄宿舍を設置するため、寄宿舍設置届を市町村長に提出した。
3. 積載荷重が1tの仮設の人荷用エレベーターを設置するため、エレベーター設置届を労働基準監督署長に提出した。
4. 歩道に工事用仮囲いを設置するため、道路占用許可申請書を道路管理者に提出した。

[No. 32] 工程計画及び工程管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 工期短縮に用いる手法として、山積工程表における山崩しがある。
2. ネットワーク工程表は、工程における複雑な作業間の順序関係を視覚的に表現することができる。
3. 工程管理の手法として、3次元CADやコンピューターグラフィックスを使用することで工事現場の進捗状況を視覚的に把握する方法がある。
4. Sチャートは、工事の進捗に対応した出来高の累積値を縦軸に、時間を横軸に取って、出来高の進捗を数量的、かつ、視覚的に示すことができる。

[No. 33] バーチャート工程表に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 工事種目を縦軸に、月日を横軸に示し、各作業の開始から終了までを横線で表したものである。
2. 工程表に示す作業を増やしたり、作業を細分化すると、作業間の関係が把握しやすくなる。
3. 作業の流れ、各作業の所要日数や施工日程が把握しやすい。
4. 工程の進捗をマイルストーンごとに確認すると、全体工程の遅れを防ぐことにつながる。

[No. 34] 次のうち、品質管理に関する用語として、最も関係の少ないものはどれか。

1. PDCA
2. トレーサビリティ
3. ALC
4. サンプルング

[No. 35] 品質管理のための試験及び検査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. シーリング工事において、接着性の確認のため、簡易接着性試験を行った。
2. タイル工事において、外壁タイルの接着力の確認のため、引張接着試験を行った。
3. コンクリート工事において、フレッシュコンクリートの受入検査のため、空気量試験を行った。
4. 既製コンクリート杭地業工事において、根固め液の強度の確認のため、針入度試験を行った。

[No. 36] トルシア形高力ボルトの本締め完了後に確認すべき事項として、最も不適当なものはどれか。

1. ナット回転量は、各ボルト群のナットの平均回転角度の±30°以内であることを確認する。
2. 一次締めの後につけたマークのずれにより、共回りが生じていないことを確認する。
3. ボルト締め付けの合否は、トルク値を測定して確認する。
4. ナット面から突き出たボルトの余長が、ねじ1山から6山までの範囲であることを確認する。

[No. 37] 足場の組立て等作業主任者の職務として、「労働安全衛生規則」上、定められていないものはどれか。

1. その日の作業を開始する前に、作業を行う箇所に設けた足場用墜落防止設備の取り外しの有無を点検すること。
2. 器具、工具、要求性能墜落制止用器具及び保護帽の機能を点検し、不良品を取り除くこと。
3. 要求性能墜落制止用器具及び保護帽の使用状況を監視すること。
4. 作業の方法及び労働者の配置を決定し、作業の進行状況を監視すること。

[No. 38] 建築工事の足場に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. くさび緊結式足場において、壁つなぎの間隔は、法令で定められた単管足場の間隔を適用した。
2. 高さ5m以上の枠組足場において、壁つなぎの水平方向の間隔は、10m以下とした。
3. 単管足場において、単管と単管の交点の緊結金具は、直交型クランプ又は自在型クランプを使用した。
4. 枠組足場において、階段の手すりの高さは、踏板より90cmとした。

※ ^{もんだいばんごう}問題番号 [No. 39] ~ [No. 42] までの4問題は^{もんだい のうりよくもんだい}能力問題です。^{ぜんもんだい かいとう}全問題を解答してください。
^{もんだい よん し たく に し き}問題は四肢択二式です。^{せい かい おも あし ばんごう}正解と^{えら}思う肢の番号を2つ選んでください。

[No. 39] ^{てつきん}鉄筋のかぶり^{あつ}厚さに^{かん}関する^{きじゆつ}記述として、^{ふてきとう}不^{えら}適^{えら}当^{えら}な^{えら}もの^{えら}を^{えら}2つ^{えら}選^{えら}べ。

1. ^{せつけい}設計かぶり^{あつ}厚さは、^{さいしやう}最^{あつ}小^{せこう}かぶり^{こさ}厚さに^{こうりよ}施^{わりまし}工^{くわ}誤^{くわ}差^{くわ}を^{くわ}考^{くわ}慮^{くわ}した^{くわ}割^{くわ}増^{くわ}を^{くわ}加^{くわ}えた^{くわ}もの^{くわ}である。
2. かぶり^{あつ}厚さは、^わひ^わび^わ割^われ^わ補^わ強^わ筋^わについて^わも^わ確^わ保^わする。
3. かぶり^{あつ}厚さとは、^{てつきん}鉄筋の^{ちゆうしん}中心^{ひやうめん}から^{きょり}コン^{きょり}クリ^{きょり}ートの^{きょり}表^{きょり}面^{きょり}ま^{きょり}での^{きょり}距^{きょり}離^{きょり}である。
4. ^{つち}土^{せつ}に^{あつ}接^{あつ}する^{あつ}ス^{あつ}ラ^{あつ}ブ^{あつ}の^{あつ}か^{あつ}ぶり^{あつ}厚^{あつ}さ^{あつ}に^{あつ}は、^{あつ}捨^{あつ}コン^{あつ}クリ^{あつ}ートの^{あつ}厚^{あつ}さ^{あつ}を^{あつ}含^{あつ}む。

[No. 40] ^{てつこつ}鉄骨の^{さびど}錆^{とそう}止^{かん}め^{きじゆつ}塗^{ふてきとう}装^{えら}に関する^{ふてきとう}記^{えら}述^{えら}として、^{ふてきとう}不^{えら}適^{えら}当^{えら}な^{えら}もの^{えら}を^{えら}2つ^{えら}選^{えら}べ。

1. ^{こうじげん}工^{おこな}事^{かしょ}現^{かいさきめん}場^{とそう}溶^{おこな}接^{おこな}を^{おこな}行^{おこな}う^{おこな}箇^{おこな}所^{おこな}は、^{おこな}開^{おこな}先^{おこな}面^{おこな}のみ^{おこな}塗^{おこな}装^{おこな}を^{おこな}行^{おこな}わ^{おこな}な^{おこな}か^{おこな}つ^{おこな}た。
2. ^{とまく}塗^{あつ}膜^{あつ}に^{あつ}ふ^{あつ}くれ^{あつ}や^{あつ}割^{あつ}れ^{あつ}が^{あつ}生^{あつ}じた^{あつ}部^{あつ}分^{あつ}は、^{あつ}塗^{あつ}膜^{あつ}を^{あつ}剥^{あつ}が^{あつ}して^{あつ}から^{あつ}再^{あつ}塗^{あつ}装^{あつ}を^{あつ}行^{あつ}つ^{あつ}た。
3. ^{そじ}素^{おこな}地^{おこな}調^{おこな}整^{おこな}を^{おこな}行^{おこな}つ^{おこな}た^{おこな}面^{おこな}は、^{おこな}素^{おこな}地^{おこな}が^{おこな}落^{おこな}ち^{おこな}着^{おこな}く^{おこな}ま^{おこな}で^{おこな}数^{おこな}日^{おこな}あ^{おこな}け^{おこな}て^{おこな}塗^{おこな}装^{おこな}を^{おこな}行^{おこな}つ^{おこな}た。
4. ^うコン^{おこな}クリ^{おこな}ートの^{おこな}埋^{おこな}め^{おこな}込^{おこな}ま^{おこな}れる^{おこな}部^{おこな}分^{おこな}は、^{おこな}塗^{おこな}装^{おこな}を^{おこな}行^{おこな}わ^{おこな}な^{おこな}か^{おこな}つ^{おこな}た。

[No. 41] ^{ざいぬ}セルフ^{かん}レ^{きじゆつ}ベ^{ふてきとう}リ^{えら}ング^{えら}材^{えら}塗^{えら}り^{えら}に^{えら}関^{えら}する^{えら}記^{えら}述^{えら}として、^{ふてきとう}不^{えら}適^{えら}当^{えら}な^{えら}もの^{えら}を^{えら}2つ^{えら}選^{えら}べ。

ただし、^ぬ塗^{あつ}り^{あつ}厚^{あつ}は^{あつ}10^{あつ} mm^{あつ} 程^{あつ}度^{あつ}と^{あつ}す^{あつ}る。

1. ^{なが}流^こし^こ込^こみ^こは、^こ吸^こ水^こ調^こ整^こ材^こ塗^こ布^こ後^こ、^こ直^こち^こに^こ行^こつ^こた。
2. ^{なが}流^こし^こ込^こみ^こ作^こ業^こ中^こは、^こ通^こ風^この^こた^こめ^こ窓^こや^こ開^こ口^こ部^こを^こ開^こ放^こした。
3. ^{なが}流^こし^こ込^こみ^こ後^こは、^こ表^こ面^こ全^こ体^こを^こト^こン^こボ^こ等^こを^こ用^こい^こて^こ均^こした。
4. ^{こうか}硬^こ化^こ後^こ、^こ打^こ継^こぎ^こ部^こ等^この^こ突^こ起^こは、^こサ^こン^こダ^こー^こで^こ削^こり^こ取^こつ^こた。

[No. 42] ^{こうせいたてぐ}鋼^{かん}製^{きじゆつ}建^{ふてきとう}具^{えら}に関する^{ふてきとう}記^{えら}述^{えら}として、^{ふてきとう}不^{えら}適^{えら}当^{えら}な^{えら}もの^{えら}を^{えら}2つ^{えら}選^{えら}べ。

ただし、^{まい}1^と枚^との^と戸^との^と有^と効^と開^と口^とは、^と幅^と950^と mm^と、^と高^とさ^と2,400^と mm^とと^とす^とる。

1. ^{たてぐ}建^{とりつ}具^{よう}枠^{よう}の^{わく}取^{りやう}付^{たん}け^こ用の^こア^{ちゆう}ン^{かん}カ^ぶー^{ない}は、^{かん}枠^{かん}の^{かん}両^{かん}端^{かん}を^{かん}固^{かん}定^{かん}して、^{かん}中^{かん}間^{かん}部^{かん}を^{かん}900^{かん} mm^{かん} 内^{かん}外^{かん}の^{かん}間^{かん}隔^{かん}と^{かん}した。
2. ^{たてぐ}建^{とりつ}具^{せいど}枠^{せいど}の^{たい}取^{たい}付^かけ^{すん}精^{ぼう}度^さは、^い対^{ない}角^{ない}寸^{ない}法^{ない}差^{ない}を^{ない}3^{ない} mm^{ない} 以^{ない}内^{ない}と^{ない}した。
3. ^{くつ}く^つず^つり^つは、^{せい}ス^{ひやう}テ^{めん}ン^しレ^あス^し製^しとし、^{せい}表^{ひやう}面^{めん}の^し仕^し上^あげ^しを^しヘ^しア^しラ^しイ^しン^しと^しした。
4. ^{くつ}く^つず^つり^つ裏^{うら}面^{めん}の^{うら}モ^{うら}ル^{うら}タル^{うら}詰^めは、^{たてぐ}建^{とりつ}具^こ枠^この^こ取^こ付^こけ^こ後^こに^こ行^こつ^こた。

- ※ 問題番号 [No. 43] ~ [No. 50] までの8問題のうちから、6問題を選択し、解答してください。
ただし、6問題を超えて解答した場合、減点となりますから注意してください。
問題は、四肢択一式です。正解と思う肢の番号を1つ選んでください。

[No. 43] 建築確認等の手続きに関する記述として、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 特定工程後の工程に係る工事は、当該特定工程に係る中間検査合格証の交付を受けた後でなければ、これを施工してはならない。
2. 特定行政庁は、工事施工者に対して工事の計画又は施工の状況に関する報告を求めることができる。
3. 建築主事は、建築主に対して、建築物の敷地に関する報告を求めることができる。
4. 工事施工者は、建築物の工事を完了したときは、建築主事又は指定確認検査機関の完了検査を申請しなければならない。

[No. 44] 次の記述のうち、「建築基準法施行令」上、誤っているものはどれか。

1. 階段に代わる傾斜路には、原則として、手すり等を設けなければならない。
2. 階段の幅が3mを超える場合、原則として、中間に手すりを設けなければならない。
3. 居室の天井の高さは、室の床面から測り、1室で天井の高さの異なる部分がある場合は、最も低いところの高さによる。
4. 水洗便所に必要な照明設備及び換気設備を設けた場合、当該便所には採光及び換気のため直接外気に接する窓を設けなくともよい。

[No. 45] 建設業の許可に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 許可を受けた建設業者は、営業所に置く専任の技術者を欠くこととなった場合、これに代わるべき者について、書面を提出しなければならない。
2. 許可を受けた建設業者は、毎事業年度終了のときにおける工事経歴書を、提出しなければならない。
3. 許可を受けた建設業者は、業種の区分について変更があったときは、その旨の変更届出書を提出しなければならない。
4. 許可を受けた建設業者は、商号又は名称について変更があったときは、その旨の変更届出書を提出しなければならない。

[No. 46] 工事現場における技術者に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 主任技術者は、工事現場における建設工事を適正に実施するため、当該建設工事の施工計画の作成、工程管理、品質管理の職務を誠実に行わなければならない。
2. 学校教育法による大学を卒業後、1年以上実務の経験を有する者が在学中に国土交通省令で定める学科を修めたものは、建築一式工事における主任技術者になることができる。
3. 主任技術者を設置する工事で専任が必要とされるものでも、密接な関係のある2以上の建設工事を同一の建設業者が同一の場所において施工するものについては、これらの工事を同じ主任技術者が管理することができる。
4. 元請負人の特定建設業者から請け負った建設工事で、元請負人に監理技術者が置かれている場合であっても、施工する建設業の許可を受けた下請負人は主任技術者を置かなければならない。

[No. 47] 次の業務のうち、「労働基準法」上、満17才の者を就かせてはならない業務はどれか。

1. 20 kgの重量物を断続的に取り扱う業務
2. 電気ホイスの運転の業務
3. 最大積載荷重1tの荷物用エレベーターの運転の業務
4. 動力により駆動される土木建築用機械の運転の業務

[No. 48] 「労働安全衛生法」上、事業者が、所轄労働基準監督署長へ所定の様式で報告書を提出しなければならないものはどれか。

1. 産業医を選任したとき
2. 労働衛生指導医を選任したとき
3. 安全衛生推進者を選任したとき
4. 安全衛生責任者を選任したとき

- [No. 49] 建設工事に伴う次の副産物のうち、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）」上、特定建設資材廃棄物に該当するものはどれか。
1. 場所打ちコンクリート杭工事の杭頭処理に伴って生じたコンクリート塊
 2. 左官工事に伴って生じたモルタル屑
 3. 鋼製建具の取替えに伴って撤去した金属
 4. 内装改修工事に伴って撤去したタイルカーペット

- [No. 50] 次の建設作業のうち、「騒音規制法」上、特定建設作業に該当しないものはどれか。ただし、作業は開始したその日に終わらないものとする。
1. モルタルを製造するために行う作業を除く、混練機の混練容量が0.45 m³のコンクリートプラントを設けて行う作業
 2. さく岩機を使用し作業地点が連続して移動する作業で、1日における作業に係る2地点間の最大距離が60 mの作業
 3. 環境大臣が指定するものを除く、原動機の定格出力が40 kWのブルドーザーを使用する作業
 4. 環境大臣が指定するものを除く、原動機の定格出力が70 kWのトラクターショベルを使用する作業